

●けんちくつれづれ章 第184回

「モダン建築の京都」展と芸文協建築教室企画

●事業案内

建築家セミナー2022 永山祐子 講演会

令和3年度 監理技術者講習

藤井厚二・八木邸、枚方宿のまちなみと「市立枚方宿鍵屋資料館」見学会

●お知らせ

入会キャンペーン

令和4年度 地域貢献活動助成対象募集

「免状型」一級建築士登録証明書の発行

「新型コロナウイルス感染症対策支え合い特別表彰」受賞

●報告

近代建築WEEK2020 ～まちにねぞす～

歴史的建造物と歴史的町並みを災害から守る方法を学ぶ ②見学

●特集 京都花街の都市史・建築史 第3回

北野の遊興空間 く宮廷文化の伝搬と芝居の森く

●作品紹介 し字型吹抜土間の家 (旬豊田空間デザイン室)

●支部だより 麒麟の次は鬼

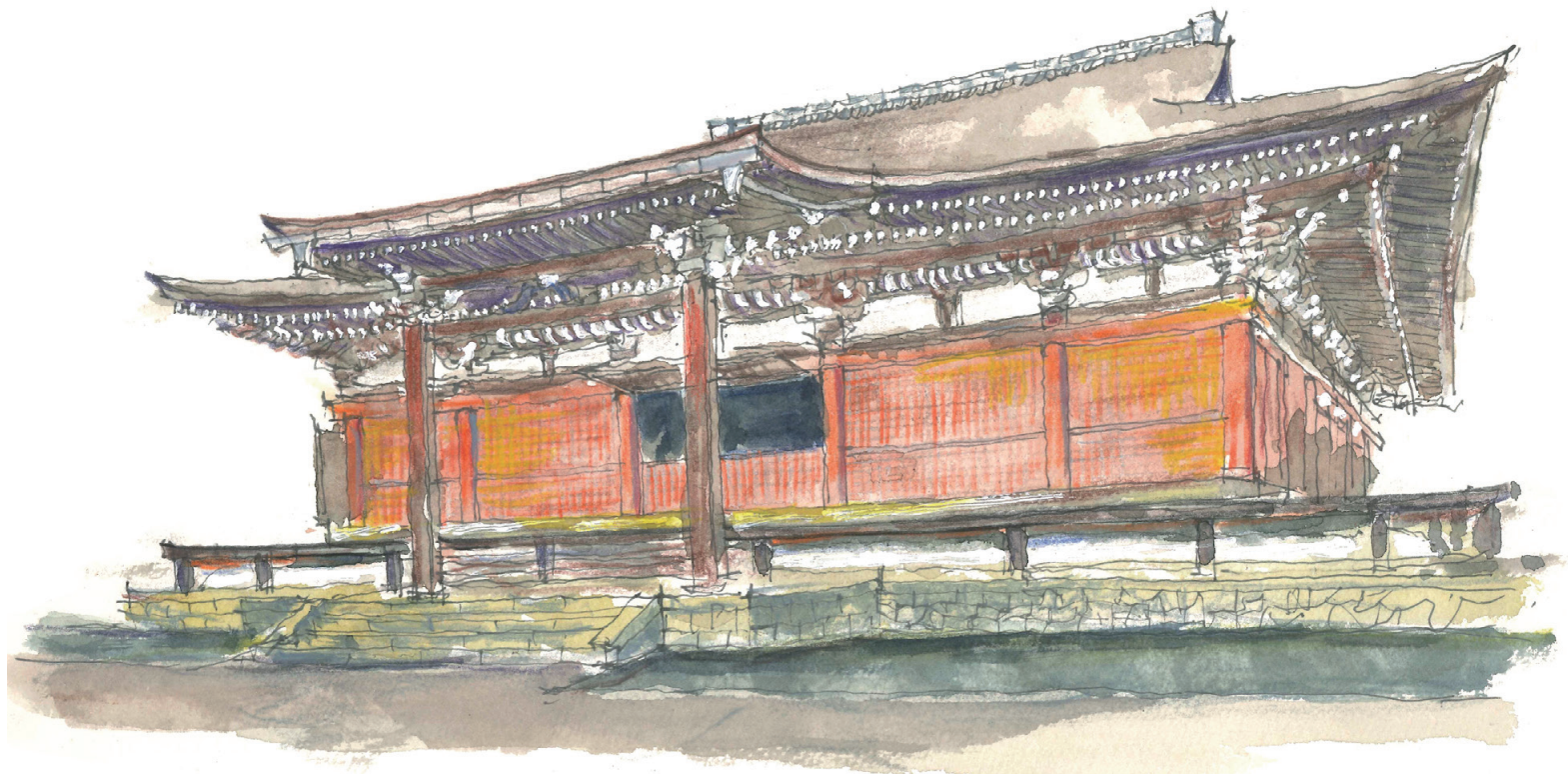
●うちの本棚・今月の一冊 『岡潔 数学を志す人に』

●表紙のごとば 『大報恩寺 本堂』

●募集 「京都だより」作品紹介ギャラリー

京都
だより

Kyoto Dayori



つれづれ
けんちく
草

皆さんは、京都市京セラ美術館で昨年末に開催された「モダン建築の京都」展に行かれたか。私は、このタイトルに魅力的を感じたことと、(公財)京都市芸術文化協会が2月に開催する建築教室というプログラムの企画担当であることから是非に観て来ました。

(公財)京都市芸術文化協会は、旧明倫小学校校舎建築を「京都芸術センター」として指定管理をするとともに、協会事務局として活用しています。企画している建築教室は、第一部で、番組小学校の代表格として存在したこの小学校校舎建築の魅力を立命館大学の大場先生にお話いただき、第二部としてこの校舎を芸術センターとして運用している意義や将来像について衛藤が説明する構成です。これは2月開催の企画ですが、実は、京都市京セラ美術館そのものも、モダン建築の京都を彩る重要建築でもあり、この芸術教室の指標として素晴らしい企画展を見せていただいたと感じていました。

(公財)京都市芸術文化協会は、京都で活動する芸術家や文化団体等が、分野を越えて交流し、互いに刺激し合うことによって新たな芸術文化の創造と発展を図ることを目的として設立され、現在、文芸、舞台、造形、茶道、芸術企画・芸術文化評論の5つの部門に約250の団体・個人会員が所属しています。

京都市府建築士会も造形分野で参加しています。

さて、「モダン建築の京都」展ですが、「京都のモダンニズム建築」展ではなく、「モダン建築の京都」という表題については、まさに、モダンニズム建築を含むモダン建築が織りなす京都そのものが展示内容の骨子であるというものでした。モダンニズム建築と呼ばれる建築の前後を含む幅広い年代の建築を展示することだけでなく、現代の、そして、将来の京都を創造する建築・都市・人々を見てもらうという意気込みが感じられるものでした。

私としては、生まれ変わった京都市京セラ美術館を観ることも大いなる楽しみでした。改修前の美術館は、高い基壇の上に階段を上り、閉じた空間の中で展示をみせていただくという雰囲気でした。それがどのように、現代に求められている開かれた美術館に生まれ変わったのかということも興味の焦点の一つでもあったのです。

不用意に建物にアプローチした自分には、硬く来場者を拒否するような外観は変わっておらず、ある意味で裏切られた思いでさらに近接すると、大きなスロープにより構成されたメイン広場、地下部分のガラスリボンと称せられている玄関から南に延びるいわば地下1階のファアードが出現しました。重量を感じる地上階部分は既存が踏襲されていて、大きく伸びる庇状に見える1階の張り出しにより、上階の重さとその下のガラスリボンが違和感なく見ることが出来ます。

この異次元の組み合わせは、建築家青木

淳氏・西澤徹夫氏による壮麗な歴史的美術館建築の画期的大規模リノベーションについての力強い主張だと感じました。

細やかな気遣いの内部を通り、東山キユーブに到達します。展示内容は合計7章からなる京都の建築の近代史であり、建築についても建築家だけでなく、建築主、また使い手まで私たちが知らなかった情報が展示されています。入ってすぐに、明倫小の展示がありました。また、何度も訪問した聴竹居でも、藤井厚二作の焼き物や伊藤忠太の祇園画の展示、ラビット社の歴史などにも注力されていました。堀川団地の充実した展示も含め企画展を振りかえると、京都がこれらのモダン建築により、年月を経て紡いできた歴史とその動的な変化が未来に続くことの確信が感じられる一日であったと感謝致します。

「モダン建築の京都」展と
芸文協建築教室企画

えとう・てるお

1950年生まれ 一級建築士

京都大学工学部建築学科卒業

(一社)京都府建築士会顧問

(株)ひと・まち・建築設計 代表取締役

建築家セミナー2022

永山祐子 講演会「建築というきっかけ」
青年部会 フォーラム・セミナー担当会

- CPD 2単位
- 日時 2月26日(土) 午後2時～4時
(受付/午後1時30分～)
- 会場 ウィングス京都
2階イベントホール
京都市中京区東洞院六角下る
- ※地下鉄烏丸御池駅(5番出口)
地下鉄四条駅・阪急烏丸駅(20番出口)
より徒歩約5分
- 講師 永山祐子氏
建築家・永山祐子建築設計主宰
- 参加費 無料
- 定員 240名
(要 事前申込、先着順)
- 申込締切 2月24日(木)
- 内容
今回の建築家セミナーは、現在開催中の「2020年ドバイ国際博覧会日本館」や「ルイ・ヴィトン京都大丸店」を設計するなど、新進気鋭の建築家として世界中から注目される永山祐子氏をお招きします。

令和3年度 監理技術者講習

事業委員会

- CPD 6単位
- 日時 第4回 3月2日(水)
受付開始/午前9時
運営説明/午前9時20分～9時30分
講習/午前9時30分～午後5時10分
- 会場 京都建設会館別館会議室
- 定員 20名(定員になり次第締切)
- 内容
建築士会が行う『監理技術者講習』の大きな特徴は、『建築に特化した講習内容』であり、特にテキストは分かりやすく、建築施工実務に役立つだけでなく建築工事全体について学習できる充実した内容となっています。また、法定講習であると同時に建築士会CPD認定研修でもあります。
設計業務にのみ従事されている方も建築施工の知識を得るために、この機会にぜひ積極的にご受講ください。

＜事業に参加される方へ＞
新型コロナウイルス予防のために

- ・感染拡大の状況により事業を中止または内容を変更することがあります。
- ・参加される際は必ずマスクを着用してください。(熱中症などの対策が必要な場合を除きます。)
- ・37.5℃以上の発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は参加できません。
- ・事業実施中は係員の指示に従い、手指の消毒や手洗い、対人距離の確保(推奨2m、最小1m)など、基本的な感染対策にご協力ください。
- ・係員の指示に従わない場合は、参加をお断りする場合があります。
- ・感染拡大防止のため、連絡先の登録や接触確認アプリのインストールにご協力をお願いします。

藤井厚二・八木邸、
枚方宿のまちなみと
「市立枚方宿鍵屋資料館」見学会

女性部会

- CPD 申請中
- 日時 3月5日(土)
- A 午後0時40分～5時
八木邸→枚方宿のまちなみ→
市立枚方宿鍵屋資料館(解散)
- B 午後1時40分～6時
八木邸→市立枚方宿鍵屋資料館→
枚方宿のまちなみ
(京阪枚方駅解散)
- 集合場所 京阪電車香里園駅
- 講師 八木邸倶楽部学芸員
市立枚方宿鍵屋資料館学芸員
枚方観光ボランティアガイド
- 参加費 会員/2,000円
一般/3,000円
学生/2,000円
※チケット購入サイトから、必要事項
をご入力いただき購入してください。
- 定員 A・B 各10名
(定員になり次第締切)
- 内容
京阪沿線の住宅地・香里園に建つ藤井厚二氏の設計である「八木邸(昭和5年)」は、自然のエネルギーをうまく取り入れ、快適に暮らすことができる工夫が詰まった住宅です。また、現存する藤井厚二氏の作品のなかでもオリジナルの家具や調度品など、当時のものが数多く残り、昭和初期の暮らしを今に伝えています。
枚方宿は、旧東海道五十三次の延長部「京街道」の宿場町で、伏見と大坂を結ぶ淀川舟運の中継港でした。地元のまちづくり協議会が活動をおられ、歴史の町並み整備が進んでいます。メインスポットとなる「市立枚方宿鍵屋資料館」は、旅人の饗応の場であった料理旅館・鍵屋を公開展示する施設で往時の賑わいを彷彿とさせてくれます。
資料館では学芸員に解説いただくと共に、まちあるきの時間は観光ガイドの案内により街道を散策します。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

(一社)京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧ください。

Event 2022 Calendar

3 ← 2

Exhibition
Seminar
Symposium
Event

2 February

- Wed 2 すべての建築士のための総合研修
- Mon 7 常任理事会
- Fri 18 代議員選挙投票期限
茶室設計勉強会(第3回)
- Sat 19 cotohaさんと学ぶ
インドアグリーンと建築
- Sat 26 建築家セミナー 2022
永山祐子講演会「建築というきっかけ」

3 March

- Wed 2 監理技術者講習
- Sat 5 藤井厚二・八木邸、枚方宿のまちなみと
「市立枚方宿鍵屋資料館」見学会
- Mon 7 常任理事会
- Sat 12 茶室設計勉強会(第4回)
- Tue 22 支部長会議・理事会

※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

(一社)京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

お知らせ

(一社)京都府建築士会 入会キャンペーン

期間：令和4年2月1日～5月31日

会員厚生委員会

このたび標記期間に入会キャンペーンを実施いたします。

特典のあるこの機会に、是非多くの建築士の方に建築士会への入会をお勧めください。

入会していただくと

- 毎月会報誌が2冊届きます。《京都だより(京都版)・建築士(全国版)》
- 勉強会・見学会に会員価格で参加できます。
- 委員会・部会・研究会・同好会活動に参加・運営できます。
- 地域まちづくりに関する調査・研究・提案・実践・支援等に参加できます。
- 建築士会CPD(継続能力開発)制度に登録します。
- (公社)日本建築士会連合会の建築士賠償責任補償制度、工事賠償責任補償制度に加入いただけます。
- イベントのご案内や行政情報など最新の情報をメールでお届けします。
- 提携専門店での会員割引優待制度があります。
- 入会金・会費は次のようになっています。

正会員(建築士免許をお持ちの方)	準会員(これから建築士になろうとする方)	賛助会員
入会金：2,000円	入会金：1,500円	入会金不要
会費(月額)：1,500円 会費(年額)：18,000円	会費(月額)：1,300円 会費(年額)：15,600円	会費(年額)：一口 36,000円

キャンペーン期間中に入会された方には特典として、
入会金(2,000円)が免除されます。

入会者のご紹介は、下記会員紹介書をご記入いただき事務局までFAXでお送りください。

追って入会申込書を送付致します。

(一社)京都府建築士会 会員紹介書

FAX:075-255-6077

入会者を紹介します。

● 会員氏名

● 連絡先TEL

入会者

● お名前

● 入会申込書送付先
〒

※ご紹介いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適正に管理いたします。

お知らせ

令和4年度 助成対象「地域貢献活動」募集

募集期間：令和4年3月1日～31日

京都まちづくり地域貢献活動センター

「京都まちづくり地域貢献活動センター」は地域のまちづくり活動を支援いたします。

詳しくは(一社)京都府建築士会ホームページをご覧ください。

地域貢献活動センター委員会までお問い合わせください。

助成の内容は？

助成の対象

建築士会員が参画する次の8つの活動で、営利を目的としない地域貢献活動

- 1 地域のまちづくり
- 2 自然環境の保全・整備
- 3 福祉環境の整備
- 4 地域防災体制づくり
- 5 歴史的遺産の再生と活用
- 6 居住環境の保全・改善
- 7 景観の保全
- 8 その他地域活性化活動

助成の申込（3月末まで）

- 活動団体に所属し、かつ3年以上建築士会に在籍する会員が申込み
- 所定の助成申込書を使用
申込書は（一社）京都府建築士会ホームページからダウンロードすることができます
ホームページアドレス
<https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp>
- 助成及び助成額は活動センター委員会が決定する

助成額

- 1件30万円かつ総事業費の1／2を限度とする
- 1事業単年度の助成額は15万円を上限とする
- 継続事業は3年以内とする

報告等

- 活動が完了後、所定の完了報告書を提出（ホームページに掲載予定）
- 継続事業は年度末に中間報告書を提出
- 報告書等の提出後、報告会を開催し、情報・技術の交流を図る

活動実績

- NPO法人古材文化の会 企画部会
＜事業名称＞ ぶんぶんカフェ
- 特定非営利活動法人 天橋作事組
＜事業名称＞ 文化財活用(重要文化財旧三上家住宅)

京都まちづくり地域貢献活動センターとは？

活動センターは、建築士会会員が参画する京都府内の地域貢献活動を支援し、地域社会の発展に寄与することを目的に設立されました。

建築士会及び個人・企業による寄付による活動基金により運営されています。

活動の内容

建築士会会員2名以上が参画する、営利目的としない前記8つの地域貢献活動に対して以下の助成を行います。

- 1 活動費の助成
- 2 情報の提供
- 3 技術の提供（人材派遣）

活動センター委員会

センター代表	高田光雄
委員長	高田光雄
副委員長	高木伸人
委員	江坂幸典 北原章裕 瀧口 静 椿森昌史 富山育子

2020

9/26

Sat

10/4

Sun

まちづくり委員会

近代建築WEEK2020
〜まちにねざす〜

笹 正康

〔実施場所〕

三条通界限

〔結果報告〕

今回で4回目となる「近代建築WEEK」は、新型コロナウイルスの感染対策を実施しながら、地域に根ざすことをテーマに開催されました。

シンポジウムでは、近代建築の保全について、横浜における行政の取組み、尼崎における市民の取組み、全国各地におけるホテル事業者の取組みが紹介され、三条での展開の可能性について議論されました。YouTube Liveでの配信で、リアルタイムでは50名程度の参加であったものの、1週間限定公開の間に、400名以上の視聴がありました。

各ツアーについても、定員を絞った開催でしたが、特に大人向けのものについては、オンライン受付ですぐに定員が埋まり、期待の高さがうかがわれました。参加者アンケートからは、「所有者・管理者からの話を直接聞ける点が魅力だ」という意見が多く、これは普段の地道なまちづくり活動の成果と言えます。また、少人数の開催が、

逆に参加者の満足度を高める結果ともなりました。

子どもを対象としたラリーでは、三条の近代建築についてのクイズや、写真を建築年順に並べるワークシヨップなどを行なった後、通りへ繰り出し、各近代建築のディテール写真からどの建物のかを探すラリーを実施し、参加した子どもに「三条の近代建築こども博士」の賞状を授与しました。子どもたちは楽しんで参加・学習してくれ、学校では学ぶことのない「近代建築」への理解醸成につながりました。また、保護者からも「知らないことが多かった」という声が聞かれ、保護者も一緒に参加することの企画意図通りの結果となりました。

京の三条まちづくり協議会、京都文化博物館、NPO法人京都景観フォーラム、そして建築士会との協働で大きな成果を挙げることができ、近代建築WEEKがまさに、「地域にねざした」存在として定着してきました。建築士会としては、まちづくり委員会だけでなく、女性部会の協力もいただき、各事業を滞りなく進めることができました。



お知らせ

「免状型」 一級建築士登録証明書 (事務所等掲示用)の 発行について

この証明書は偽造防止等の対策を講じたもので、建築士事務所に掲示するものとして相応しい建築士登録証明書となっております。

ご希望の際は、下記をご確認のうえお手続きください。

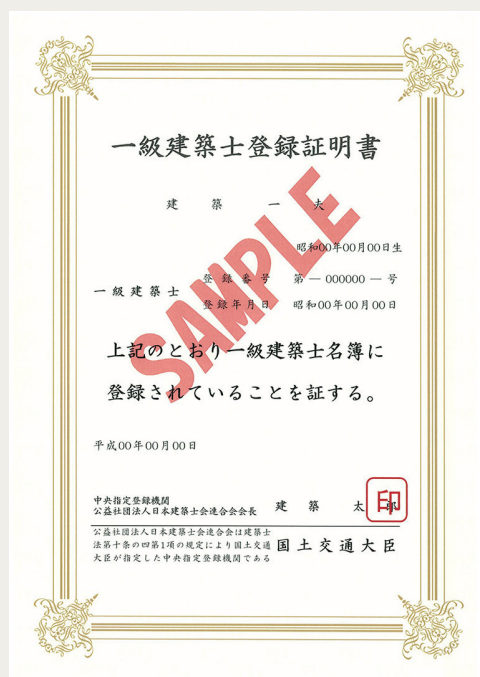
●必要書類

- (1) 証明願(和文)
- (2) 一級建築士免許証(免許証明書)の写し
- (3) 本人確認ができる公的な身分証明書(写し)
- (4) 郵送申込:
発行手数料1,780 円に、
返信用レターパック代520円を加算した
2,300円分の定額小為替を同封して下さい。

●申請先: 〒108-0014

東京都港区芝5-26-20 建築会館5F
(公社)日本建築士会連合会 登録部

※郵送期間を含め約1週間かかりますので余裕をもってご依頼ください。



「実施場所」 妙心寺

「結果報告」

大地震の発生が予測される中、歴史的建造物や町並みを災害から如何にして守るかをテーマとして、防災研究者で当委員でもある大窪健之氏を講師に、座学と見学会の事業を実施することにしました。座学では木造文化都市の意義と課題、対策事例について学び、今回は実際に対策をされた臨済宗妙心寺派大本山の妙心寺を見学させて頂きました。見学会には18名が参加し、大窪

氏を始め妙心寺様、防災設計者様、防災機器メーカー様に解説を頂きました。妙心寺は広大な境内に重要文化財を始め数多くの歴史的建造物が建つ中、周囲は密集した住宅地で、火災による延焼シミュレーションの結果、北と北西のエリアから境内に火が入り易く隣接地の境に延焼を抑止する対策が必要になることが判明。そのことから、新たに開発された外壁面に散水し一時的に耐火性を持たせる街路壁面散水設備(WSS)を北門に設置されました。境内には2700㎡の貯水槽と放水銃、屋内



妙心寺北門脇に設けられた
街路壁面散水設備(WSS)



放水銃の操作方法を解説頂いた

消火栓、ドレンチャージャー等159ヶ所に消火設備が設けられ、配管は地中埋設式にされるなど景観にも配慮されていました。見学

を終え、膨大で緻密な防災の取組みに敬意を表すると同時に周辺の諸条件を踏まえて防災計画をすることの大切さを学びました。

2020

10/25

Sun

ヘリテージマネージャー委員会 歴史的建造物と歴史的町並みを災害から守る方法を学ぶ ②見学

熊田 孝

北野の遊興空間 と宮廷文化の伝搬 と芝居の森

井上 年和



いのうえ・としかず

京都美術工芸大学工芸学部准教授
専門／日本建築史、文化財建造物保存修理
1969年 大阪府生まれ

1 北野の芸能と茶屋

今回は北野の茶屋の始まりとその後の展開について触れた。花街の発生にはもちろん茶屋の存在は欠かせないが、茶屋が建てられただけでは「お茶屋」には至らないし、単に茶屋が建ち並んだだけでは花街は成立しない。

茶屋で働く茶立女や茶汲女、あるいは飯盛女が遊女と化し、遊廓が成立していったなどの説もあるが、それだけでは現在見られるような華やかな花街文化は形成されなかったであろう。

それでは何故、京都を代表するような花街文化が成立したのか。

それは、茶屋と芸能の発達が深く結びついていくことに起因していると考えられる。そして、北野の地は茶屋と芸能が結び付き、現在の花街へと発展してゆく過程が追える稀有な場なのである。

2 北野祭と神事

そもそも「芸能」という言葉は、使い始められてから今日に至る間にその意味や内容が変化してきた。

林屋辰三郎によると、『後漢書』、『史記』、『舊唐書』などの漢籍に用いられていたも



図1 北野天満宮における白拍子の舞
(撮影 大道雪代)

のが日本に伝わったものであるが、日本の初見は律令の醫疾令の中で学問的技能を表す用語として用いられたもので、個人が主体的に発揮しうる実力を指したものであるという。

これが平安末期になると、宮中での朗詠、今様、萬歳楽、白拍子、咒曲、乱舞、読経、俱舎など会遊時の余興などとして芸能という言葉が用いられ、現代的な意味と近づいてくるのである。

さて、北野社においては、遣唐使派遣の

ため天神地祇が祀られたのが836（承和3）年、菅原道真が祀られたのが904（延喜4）年のことで、以降は天皇行幸や祭りにあわせ、様々な行事が開催されることとなる。1092（寛治6）年8月5日には北野祭にあわせ「楽人」および「相撲」1108（天仁元）年8月4日には「神馬十列」が催されている。

これら雅楽演奏や相撲、競馬などは神事として催されたものであるが、それぞれ個人が発揮しうる力を神に捧げるという意味では、新義の芸能を指す。

3 神社境内における 朝廷文化の伝搬

（1）白拍子と猿楽、田楽

平安末期から中世にかけては、芸能も多様化し、北野社における神事にも影響を与える。

鎌倉時代の公家である民部卿権中納言、広橋経光の日記『民経記』寛喜元年（1229）条には、

「参北野、于時黄昏也、今日依朝幣每事稠人也、毎月朔幣白拍子等巡役云々、」

とあり、北野社における毎月の朔幣で白拍子が役されるようになったと記述されている。

この記事に関しては網野善彦によると、白拍子は朝廷に関わる「白拍奉行入」により管理されており、北野社の何らかの機関による公的な役職である可能性を指摘されているが、もしそうでなかったとしても、公家の参列する行事の中での奉仕は宮廷文化と深く関わりがあると言える。

この白拍子は境内のどこで行われたか判らないが、神社境内は宮廷内部で育まれた芸能が行事として取り込まれ、披露される場であったことは事実である。

時代は下がるが、その後の宮廷内の芸能としては散楽から派生したと言われる猿楽も北野社境内で催された記録がある。

『北野天満宮史料 古記録』「法花堂事并

社家故実少々註之」1382（永徳2）年5月1日条、

「御前大庭ニテ大王猿楽ニテアリケルニ、其時拝殿ノ屋根の上へ諸人ノホリテアリ、余浅増敷事也トテ、其後ハ毘沙門堂ノ御前ニテスル也、毘沙門堂ノ前ニテ始而スル初ハ、同八日近江吉力最初也、」

大王は法名を道阿弥（これ以前は大阿弥）といい、近江猿楽日吉座の役者である。この日行われた北野社の猿楽では、多くの見物人が押しかけ、猿楽を見るために拝殿の屋根の上まで上がってしまい「浅増敷（あさましき）事」なので、御前大庭から毘沙門堂の前へ移したという。

このように、宮廷行事や神事に関わる芸能は神殿前の囲われた空間の中で行われ、庶民に開放するには場の容量が小さいため、見物場が屋根の上にならざるを得ないのである。

『後鑑』には1413（応永20）年7月条に以下のような記述があり、観世太夫による能が庶民にも開放された様子が伝えられる。

「是月 依北野勧進猿楽事。多賀豊後守令見物以下事。古文書載

来十日ヨリ。於北野七日間観世太夫□能ヲセラレ畢。望之人ハ貴賤ヲ論ゼズ。

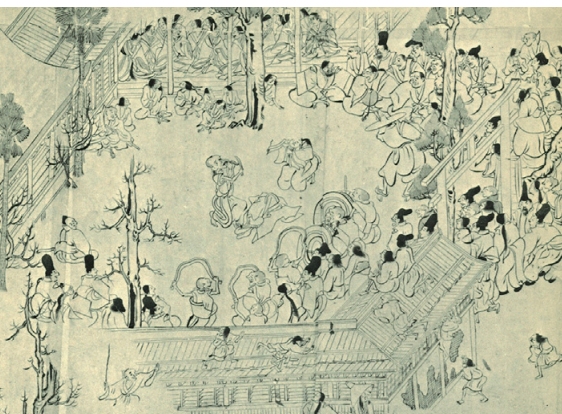


図2 法師田楽
庶民が屋根ののぼり見物する様子（『年中行事絵巻』より転載）

老若ヲイハズ見物有ベシ。猶以喧嘩口
論御停止之処也。仍如件。
應永二十年七月 日 豊後守

この記事には開催場所の記載がないもの
の、貴賤の区別なく望むものをみな収容す
るほどの場として廻廊の外で行われたと考
えてよいのではないか。

このように、芸能の場は庶民の力により
神殿前から徐々に外に開放されていったと
推測される。

(2) 経王堂の読経における

鑄鐘、傀儡、馬乗

北野社における芸能は、前項までで述べ
た神事に関連した場のみならず、境内のあ
らゆる場所で催されていた。

表1は北野経王堂前で行われていた鐘鑄
の年表をまとめたものである。

当時梵鐘の鑄造は、芸能興行が盛んで
人々が多く集まり、勧進の寄付集めが容易
であったことと、鑄造は仕込みから鑄あが
って力車に乗せて引き返るまでの行程その
ものが行楽の見物対象であり、芸能となり
得ていたのである。

さて、経王堂前では北野社用の鐘ではな
く善光寺、山下寺、誓願寺、大仏等、他の
寺の鐘や蘿髪を造っていたようで、天神講
のある25日にあわせて行われていたものも
多く、経王堂での鑄造を見物に多くの人が
集まり、芸能興行のようになっており、ま
た、その場には他の芸能も集まり、北野社
周辺の賑わいが創出されていたのである。

前回号では、15世紀に皇族である伏見宮
貞成親王が北野の一切経供養に併せ他の公
卿や僧と訪れ饗宴を催したり、永禄年間頃
(16世紀中頃)にも経王堂の横で貴族が幔
幕を張っている様子が描かれていることを
紹介させていただいたが、その他にも「言
継卿記」などをみると、千部経に併せて傀
儡(くぐつ)(1568(永禄10)年3月
29日)や曲馬乗(1583(天正11)年8
月12日)が行われるなど、経堂周辺では神
事とは違う形で芸能が度々開催され、そ
こには貴賤を問わず人々が集まり賑わいを
呈するようになっていたのである。

表1 北野社における鑄鐘

和 暦	西暦	記 事	出 典
延徳3年4月7日	1491	今日鐘鑄辰刻云々、貴賤群衆無是非者也、仍社家警固、西京加下知、各罷向者也、	北野社家日記
		今日北野宮寺鐘鑄云々、都鄙貴賤群衆、言語道断云々、	実隆公記
		今日北野・カネ井候	山科家礼記
延徳4年4月25日	1492	今日愛宕山鐘鑄在之、春松丸外之会所内に構棧敷、女房衆各罷出也、事外之群集云々	北野社家日記
		愛宕山推鐘、於北野経王堂、今日鑄之	晴富宿祢記
永正2年4月25日	1505	北野経堂前鑄鐘、善光寺鑄口也、今日鑄損云々	実隆公記
永正13年8月17日	1516	山下寺家鐘鑄、海運聖興行之、於南大門前鑄之、口三尺二寸云々、衆徒於拝見物、貴賤群衆輩凡及六万人云々、此鐘不成就、破了	厳助大僧正記
永正15年4月25日	1518	山下鐘於北野鑄之、無事鑄之、数万人群集云々	厳助大僧正記
天文14年3月26日	1545	今日誓願寺鐘、北野経堂北にて鑄之間、(中略)見物に参詣、都鄙貴賤男女不去道也、何万人共不知数也、暫令見物、帰宅了	言継卿記
永禄12年4月8日	1569	今日於経堂大仏之蘿髪鑄之、都鄙之貴賤男女群衆云々、南向参詣云々	言継卿記
永禄12年4月25日	1569	於北野経堂、又大仏之蘿髪鑄之、貴賤群衆云々、	言継卿記

傀儡(くぐつ)とは、日本の中・近世に、
人形芝居を見せるなどして諸国を旅した漂
泊の芸能者集団で、平安後期に書かれた大
江匡房に記された『傀儡記』によると、定
まった家が無く、穹廡氈帳(きゅうろせん
ちよう 蒙古のパオのようなもの)を住居
とし、水草を逐って移動し、北狄(ほくて
き 北方の遊牧民)の暮らしに似て、男は
弓馬を使って狩猟を行うかたわら、奇術・
幻術を行い、「木人」(人形)を舞わし、女
は化粧をして今様などを謡い、客を引く特
異な風俗の民であったと伝えられる。
やがて女の長者によって率いられた傀儡
は、今様・朗詠を謡って旅情をなぐさめ、
酒席・宴席に侍るなど、水辺の遊女とほと
んど変わらぬ営業形態であったという。

言継卿記に書かれた16世紀頃の傀儡も同
じような生活が続けていたかは定かではな
いが、このような職業的芸能集団が芸を催
す場として北野社境内が供されていたのだ。

(3) 社家宅の棧敷

北野社周辺において芸能が興行されたの
は、実は社頭や経堂周辺だけではなかった。
『北野社家日記』延徳元年(1489)
9月23日条には、

「一、就当所舞、近衛殿様上臈御方御棧
敷在之、仍御畳・簾・障子等事被
仰問、御成間進上之、以西洞院殿
被仰出也、」

とあり、社家で舞があった。棧敷を拵え、
畳を敷き、簾、障子等を設え、御成間まで
詠え入念な造りとなっている。

同日記には1491(延徳3)年2月26
日には能椿坊でも「御しはキ」(お芝居)が、
同年7月23日には盛輪院で舞勧進があり、
1500(明応9)年9月9日には松梅院
が能椿坊より芝居料足を受け取った記事も
みられる。

このように社家で舞や芝居等の芸能が催
されるようになったのは、度々の室町将軍
参籠により社家も休憩所や宿坊に使われ、
楽人や芸能者と北野社家との距離が近くな
ったためではないであろうか。北野の芸能
は、北野社内の広場のみならず、社家で開
催され、邸宅内にはそのための施設が拵え
られていたのである。

そして、社家との繋がりを強くした芸能
集団たちが、やがて徳勝院長屋などによつ
て女子の踊りや狂言、芝居などを茶屋など
に派遣されるようになったことが現在の上
七軒花街の発祥ではないだろうか。

4 近世における 芸能の大衆化

(1) ややこ踊り

『北野社家日記』には1591(天正19)
年5月24日条に次のような記事がある。

「や、こおとり松梅院へ参おとり申候、
百足被遣候、明日二十五日にくわんしん
仕たきとて参候、則茶ののうしろにて見
海いはのきわをつかまつれと被仰出候、」

松梅院にややこが踊りに来て、25日から
勧進をしたいと申し出があった。「ややこ」
とは当時一世を風靡していた「お国」であ
ると思われるが、別人物で関係が深い者で
あるという見解もある。

この記事については、小笠原恭子氏によ
って北野社家日記の原文読み下しからの研
究成果があり、「茶ののうしろ」は「茶や
のうしろ」「いはのきわ」は「ばはのきわ」
ではないかという指摘がある。

松梅院がお国に指示した勧進場所とは、
松梅院から見て茶屋の後ろで、馬場(右近馬
場)の際、つまり北野社東門前であるという。

出光美術館、堺市博物館及び京都国立博
物館所蔵の『洛中洛外図』ではいずれも北
野社東門前、茶屋の東側で歌舞伎が興行さ
れているし、その演目は「茶屋遊び」であ
る。茶屋の東側は確かに茶屋の後ろである
が、『1637(寛永14)年洛中絵図』では、
高善院、能周、空などといずれも社家が並
び、その後は弁財天が建てられている。こ
こが天正頃は空地だったか、あるいは歌舞
伎が興行されたのは松梅院の敷地内だった
のではないだろうか。

お国と思しき人物は、1593(文禄2)
年6月2日にも松梅院へ来て酒を飲まされ
て踊っているし、(この時は一寸女と記載)、
1604(慶長9)年12月27日にも礼に來
ている。

幕府からは「かぶきくるい」(駿府訴訟
書付類)、社中からも「於社中くにと申か
ふき女と松梅院みたれなる事」(北野光乗
坊文書)などと言われるほど、松梅院とお
国との関係は親密であった。

(2) 芝の勧進場

社家宅内あるいは隣接した場で開催され
ていた芝居や能などの芸能は、近世になる
と境内の随所で行われるようになる。

『北野社家日記』1598(慶長3)年
11月17日条に、

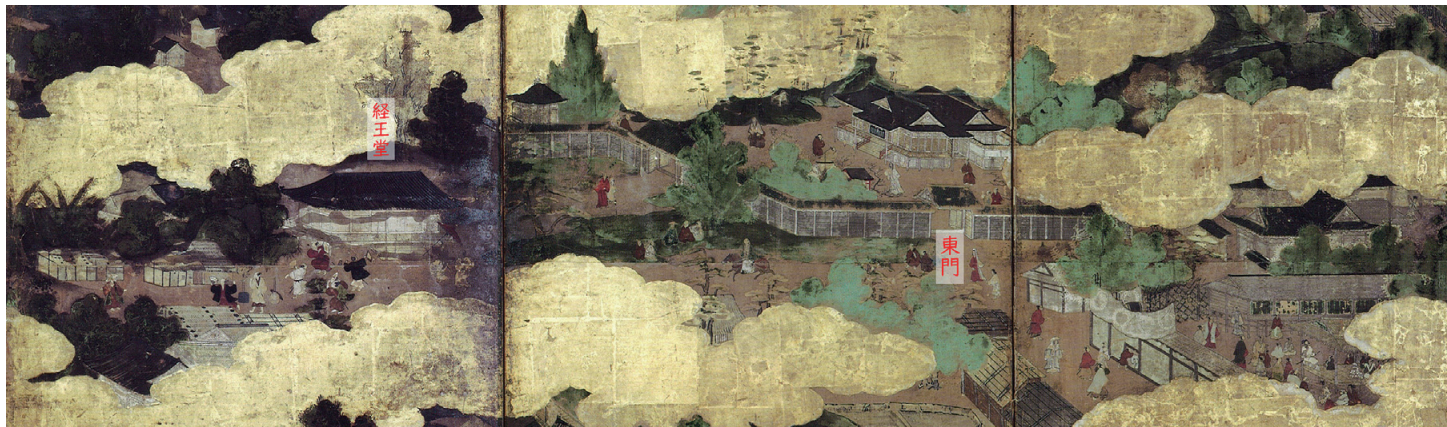


図3 洛中洛外図 出光美術館所蔵
京都国立博物館編「洛中洛外図」より転載・加筆。北野社東門前には舞台が設けられ、歌舞伎が演じられ、経王堂前では扇子を片手に舞が興じられる様子が描かれる。

「十七日、天気快晴、能松入公二くわんせ能仕由也、目代をよひ、森枝葉折とらせ候ハ、曲事之由申付也、能松能存を以申様ハ、さ敷を当坊の分うち申たる由申し越候、さ候へ共見物二不参也、養命坊ハ見物二御出之由申也、」

とあり、森の枝葉を取り、観世能が催され、1604（慶長9）年4月19日には女房能（時慶卿記）があり、終日にわたり鼓・謡の音が聞こえた様子が記される。

これら記事は何れも場所の記載がないが、社家などではなく、境内において一般の参詣者にも解放された場所が想定される。

能演地の具体的な場所が特定できる記事としては、『北野天満宮記録 目代日記』1632（寛永9）年7月「経堂小芝」（8月）には「経堂北芝」と記載）における計画が挙げられる。

この能演地は9月1日に縄張りが行われ、その規模は南北30間（約60m）、東西28間（約54m）に及ぶ大規模なもので、9月21日から25日まで能演が開催され、松梅院の棧敷二間と目代の棧敷一間が設けられた。

この「経堂小芝」あるいは「経堂北芝」は経王堂の周辺で、中世には千部経に併せ鑄鐘や傀儡、曲馬など大衆に向けた様々な芸能が催されていた場所、ここに社家の芸能が規模を拡大し進出したと捉えられるのではないだろうか。

（3）上之森・中之森・下之森の様相 元和年間刊行の「竹斎」には、

「（前略）北野の社に参りて見れば、貴賤群衆の限りなく、輿や車を遣り違へ、時めきあへるその中に、（中略）又、有方を見てあれば、連歌の座敷と打見えて、唐木の筆臺、花梨の文臺、下繪の懷紙折重ね、執筆と見えし若男、衣紋気高く引繕ひ、慇懃げにも差し出て、宗匠座敷に直りければ、既に連歌は始まりぬ（中略）又或方を見てあれば、若侍をりあひて、大声を挙げて鞠を蹴る。（中略）又或方を見てあれば、遊女遊君集りて、若き人々打交り、三味線・胡弓に綾竹や調べ添えたるその中に、石村検校参られて、歌の

調子を上げにけり。（後略）」

などとあるように、近世初頭の北野社周辺は常に賑わいが創出される場所のイメージが持たれていた。

「北野天満宮史料」に掲載された近世初頭から幕末に至るまでの開催場所が特定できる芸能興行を抽出すると、能や芝居の他にも歌舞伎、浄瑠璃、物まね、辻放下、ちよるけん、かるわざなど、芸能の種類も大衆的なものが増加する様子が伺える。

場所は「経堂小芝（経堂北芝）」のほか「上之森」や「中之森」、「下之森」、「七本松」などである。

『慶長昭和京都地図集成』「元禄十四年實測大絵図」（図4 前号再掲）で当時の北野社周辺をみると、北野天満宮周辺には本社・北・南・東の3方と南東に少し離れた位置に「林」が広がっていたことが確認できる。

上之森は本社と社家宅で囲われているが、1701（元禄14）年西側の土手（お土居）を切り開き、翌々年の元禄16年には平野社前の道も整備され、以後、北野社から平野社へ抜ける参詣者の通路となり、茶屋が建ち並ぶようになる。

中之森は、南方に経王堂が位置している



図4 「元禄十四年實測大絵図」元禄14年（1701）（部分）
『慶長昭和京都地図集成』より作成（前号再掲）

ことから、近世初頭の「経堂小芝」、「経堂北芝」に相当すると考えられる。

ここは、江戸時代中期になると茶店が建ち並ぶようになり、専ら空間地や東側の土地で相撲などが行われるにとどまるようになる。

下之森も江戸中期頃から茶屋の常設化や宅地化が進み森と町とが隣接するようになるが、敷地が広大で畑も隣接していたことから江戸時代を通じて芸能空間に供されていた。

いずれも木の生い茂ったエリアを意味し、この中で芸能が開催されていた光景が浮かび上がる。

ただし、上之森では神事、中之森や東門前では能など神事から派生、あるいは社家が関与するもの、下之森では大衆化されたものといったように、各森で開催される芸能は、神への近さに対して階層性を持つ結果となったのである。

（4）七本松の勸進能場

京都市歴史資料館には「観世太夫勸進能芝居之絵図」が残る（荻野家文書）（図5）。この絵図は1646（正保3）年に七本松で開催された勸進能場の様子を現すもので、舞台、楽屋、棧敷、畳敷の配置が描かれて

いる。この絵図は1672（寛文12）年に描かれたものであるが、舞台や楽屋、棧敷などの規模や形状が知れる。

この時の様子は『隔裏記』1646（正保3）年10月16日条に記載がある。

少し長文となるので概略すると、

- ・15日は天気悪かったので16日から始まり、17日も公演したが、18・19・20・21日も雨のため中止、22・23日に公演して終了。
- ・舞台は南向きで三間四方とし、後方は板張り、水引幕はなく板張りとしている。
- ・橋掛は北方に板を打ち付け、松を北方2本、南方に3本の合計5本生やしている。
- ・棧敷は83間とし、舞台の近くには300余枚の畳を敷く。
- ・畳を4日間借し切る場合、1畳につき金子1両とする。竹などで垣（仕切り）を作つて籠る場合も無料である。
- ・棧敷は白銀10枚、7枚、5枚に応じ上中下のランク付けがある。
- ・鼠戸口（入場料）は1人に付き銀二錢目で、鼠戸口の上や楽屋口には「藤丸之紋」がついた白幕が張られている。
- ・周囲の総構えには藁筵が掛けられた竹垣が廻らされ、客席との間には空地がある。
- ・舞台正面は公方、その脇は所司代の棧敷とする。

など寛永時の経堂北小芝のものを凌ぐ他に例を見ない巨大な仮設劇場が建設されたのである。

1702（元禄15）年にもほぼ同規模の勧進能場が建設されていたことが観世太夫勧進能場絵図（元禄15年9月18日）（図6）より判る。西は「アオヤ通」、南は「仁和寺道」に面する東西70間半、南北80間の敷地で、図4にも示す通り畑（⑦部分）となつており、北野社周辺でこれほどの規模の劇場を建設できる場所は他になく、正保年間の能場も同じ場所と特定できる。

ここでは中之森や下之森では収容できなくなる程の大規模な勧進興行が開催され、そのたびに大規模な能場が建設され、下之森と接続された広域にわたる芸能空間が形成されていたのである。

しかし、このような大規模な勧進能場は、当時の芝居規制の影響や建て替えを繰り返す浪費的な建設を継続することが困難なことから、やがて形態を変えてゆく。

（5）茶小屋における芝居

下之森の茶屋の使われ方は下之森の芸能空間と連携したものであった。

『北野天満宮史料 古文書』延享3年（1746）3月条「下之森茶屋中茶小屋貸付二付一札」には、

「一、下之森二而私共数年来渡世仕来候処、近年一統二殊之外困窮仕、御上納銀借り請罷有候処、段、難儀仕、右銀子上納可仕様無御座、困窮至極仕候二付、此度奉願度趣者、私共所持之茶小屋之内沓ヶ処、破損取繕五ヶ年之間辻打見世物等二

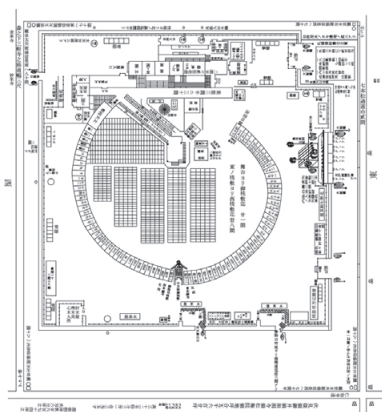


図6 観世太夫勧進能場絵図(元禄15年9月18日)
竹内芳太郎『日本劇場図史第一冊』王生書院
1935年に掲載の図版をリライト

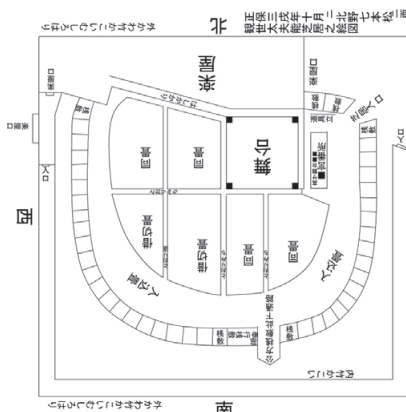


図5 観世太夫勧進能芝居の絵図(寛文12年)
荻野家文書 京都市歴史資料館 リライト

借シ、其余慶を以御上納銀相立候様ニ仕度奉存候、地子之儀ハ、辻打見世物等二借シ候度、二御届申、相応二度毎ニ相対仕、相立可申候、段御願申候処、御免被下、忝奉存候、右之通辻打或ハ見世物等之外、櫓又ハ名代芝居商人等二借シ申間敷候、(後略)」

とあり、下之森住人が、困窮につき上納金を賄うため茶小屋を辻打見世物、櫓、名代芝居等に貸そうとしたことが伺える。『北野天満宮史料』をみると、文化・文政頃にも浄瑠璃や浮世断などに貸されており、茶屋と言いつつ限られた空間の中で芸能が開催されるようになっていったのである。

（6）下之森の宅地開発

『北野天満宮史料 古文書』享和2年（1802）10月条には、

「一、御番所下之森中程ニ、八わたや源次朗、大文字屋伊兵衛兩人小屋跡、東西十九間、北通り筋南通り筋迄、私共引請、此度新建仕候。依之、御地代之儀は、是迄兩人相納候通、半季二銀拾式匁丸屋佐助間、拾匁万屋弥太郎分、無相違急度相納可申上候。若、自然不納ニ及候ハ、いか様仰付候共、違背申上間敷候。為後日之、一札仍而如件。

享和貳年戌十 丸屋佐助

万屋弥太郎」

とあって、下之森の日小屋跡に新たに建物を建設する計画が上がった。場所は南北を通りに挟まれた場所、すなわち図4で示す中央の島のような部分で現在は「新建町」という町名が付けられている。ここが仮設的な日小屋から常設的な居小屋へ建て替えられ、芝居の森は茶小屋芝居の町へと変容していったのである。

（7）妓院劇場

『京都府地誌』には天明元年（1781）5月に

「下之森東町二妓院演劇場ヲ設ク」

とある。京都府地誌は1881（明治14）年から17年にかけて作成されたもので、この記事に関しては根拠に欠け、仮に妓院演劇場なるものが建設されていたとしてもその様相については不明である。

しかし、京都における当時の遊廓地である島原においても『洛西島原絵図』（1729（享保14）年、中川家所蔵）に見られるように揚屋町に「八月朔日より十三日迄曲輪女郎集 興行也 踊場」が存在し、祇園でも「祇園町町之会所家并踊場見分絵図」（1748（延享5）年、歴彩館所蔵）に描かれるように、町の会所を踊場として活用したであろう例が見られるし、18世紀頃においては、下之森に建物が建ち並び、森から町へと変容していく過程の中で、芸者が芸を披露するための施設が揃えられていたとしても不思議ではない。

現在の歌舞練場に相当する花街専用の劇場施設は、既に近世から存在していたのだ。

5 北野の近代とこれからの上七軒

北野社は明治になり、廃仏毀釈により40ほどあった宮仕はすべて廃院、廃坊、廃寺となり、関りの深かった茶屋と芸能の形態も変化した。

また、下之森は1990（明治33）年に京都電気鉄道が開通し車庫が建設され、1913（大正2）年には大日本武徳会京都支部道場が建設されるなど、かつての茶屋と芸能広場は時代とともに淘汰され姿を消した。上七軒は、現在も花街として存続する。これはやはり北野社との親近性によるものと考えられる。

神への近さに対する階層性は、花街の存続に影響を与えたのである。

神事や宮廷文化の影響を色濃く残す花街文化は、時代の変化に対応しつつ今後も継承されていくであろう。

京都府 「L」型吹抜土間の家

京都市近郊に立地する敷地、建物共に広くゆたかりした条件を生かした個人住宅です。

プランは奥行の長い長方形で、緩勾配の片流れ屋根にOMソーラー集熱パネル設置のため一部越屋根としています。玄関を入ると南側は奥まで幅1・8mのタイル土間が続き、手前はL字型に北へと抜けていきます。土間はLDKと外部とのバッファゾーン（緩衝スペース）となり、夏の日射を和らげ、冬季はタイル面に蓄熱した暖気が上がり、さらに床暖房も合わせて快適性を確保。また2階までの全面吹抜でダイナミックな空間です。土間の2階は吹抜を囲むスノコの廊下で回遊できるようにし、インナーバルコニーを設けました。さらに奥の曲線階段で緩やかに昇降できます。

LDKは土間と一体のワンルーム空間ですが、床は15cm上げることによりキッチンとダイニングテーブルを同じ高さに揃えて、すっきり伸びやかに生活の中心となります。背面は全面に連続した造作収納をデザイン。床からは屋根の集熱パネルからダクトを通した暖気が上がります。

(有)豊田空間デザイン室 豊田 悟

建築主／個人
 設計者／(有)豊田空間デザイン室
 施工者／(株)住暮楽（すみくら）
 所在地／京都府
 用途／戸建住宅
 工期／2018年8月～2019年3月
 建築面積／91.20㎡（27.59坪）
 延床面積／145.35㎡（44.00坪）
 構造規模／木造軸組工法
 地上2階
 写真撮影／鈴木健太



外観



南西側外観



外観

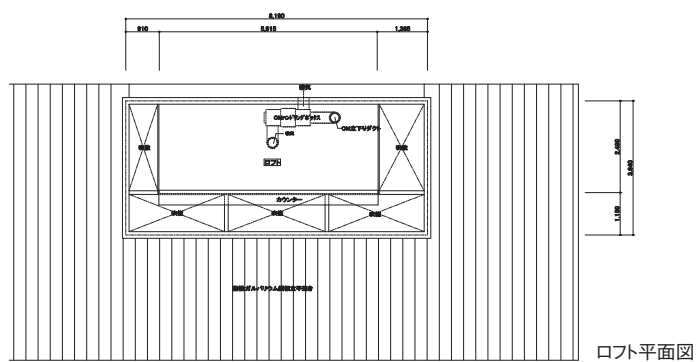
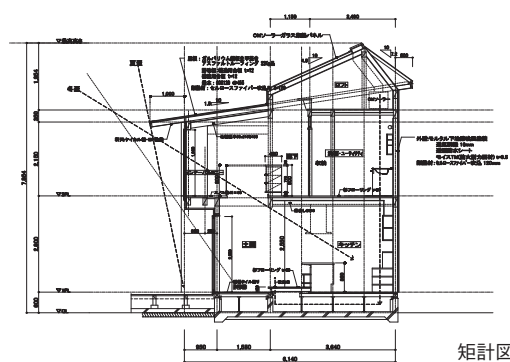
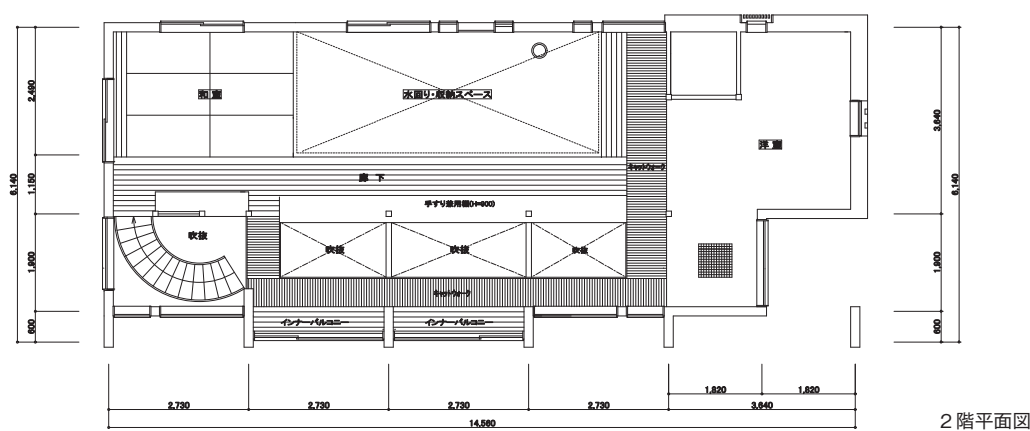
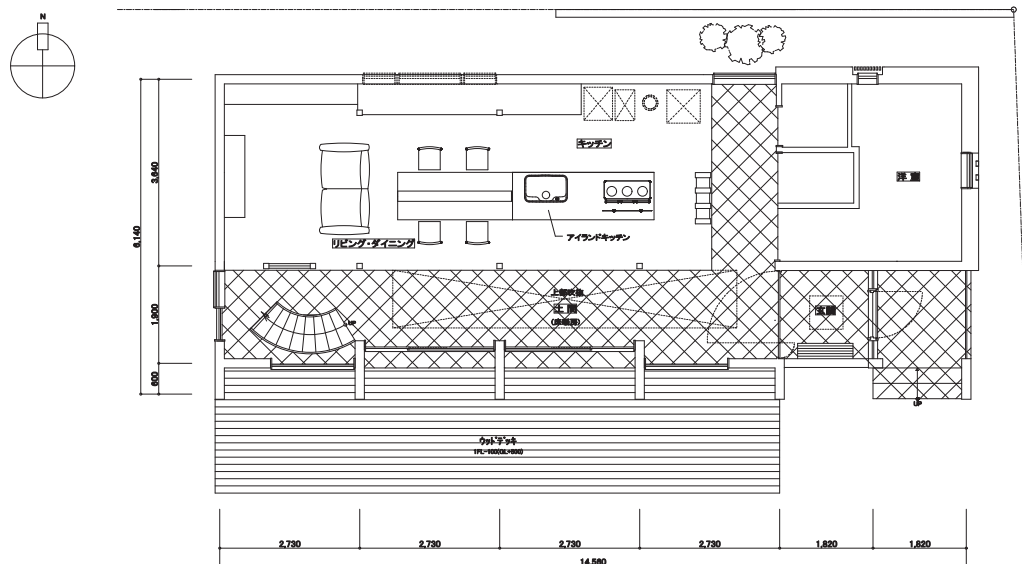
GALLERY
 作品紹介



LDK見返し



土間とLDK





麒麟の次は鬼

福知山支部 下村真一

昨年の丁度今頃まではNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放送にあやかり、福知山は明智光秀公に関連するあれやこれやで沸いていました。しかし折も折、コロナ禍の真っ只中に入ってしまった、当初の目論見は外れてしまった感があります。一方で、近年の「お城ブーム」という伏兵がいて、福知山城の石垣を見たいというマニアの方々の来訪が一定数あり、そこそこの成果も出たようにも思います。ただ大河ドラマ終了とともに、それまでの取組みも殆どがゴールとなり、各所の幟やポスターなども一斉に消え、反動ですごく寂しくなっていました。広報に力を入れている福知山市はここで、次のキャラクターにシフト。それは「鬼」です。

平成18年、平成の大合併のなか、福知山市も近隣三町を編入合併しました。その一つ大江町は、アイデアマンの町職員の企てにより、大江山の酒呑童子を町のメインに据えて、鬼伝説を活かしたまちづくりを推

進しました。「酒呑童子まつり」のようなイベントはもちろん、「日本の鬼の交流博物館」から鬼のマスコットが描かれたマンホールの蓋までのインフラ整備、「世界鬼学会」の立上げや、鬼のまちづくりに取り組む自治体のネットワーク「全国鬼サミット」の第一回開催をするなどのソフト面も充実させていました。

もともと、福知山の商工会議所が主催する「お城まつり」は、天守閣を再建するまでは「福知山鬼まつり」という名称で、光秀公の御霊さんと同じく、大江山の鬼は地元で馴染みの深い存在ではありませんでした。大江町と一緒に今、酒呑童子も福知山の大事なシンボルとして活かしていくのは自然な流れと言えます。ところが今、漫画「鬼滅の刃」のヒットに乗っかり「鬼退治の舞台」を前面に出して売り出すという裏切りを決定中。来年の鬼博の開館30周年に向け、色々企画を打ってきますので是非ご注目ください。へいがいと！福知山で検索！



鬼の交流博物館



頼光鬼退治像

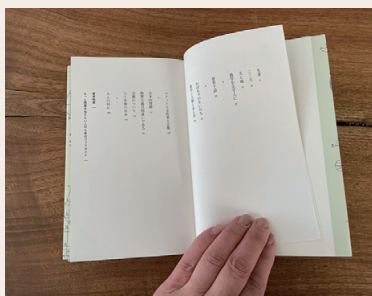


平成の大鬼

【岡潔 数学を志す人に】

STANDARD BOOKSのシリーズは、平凡社が提案する新しい随筆シリーズです。

科学と文学、双方を横断する知性を持つ科学者・作家の珠玉の作品を集め、一作家を一冊で紹介しています。



著者：岡 潔
発行：平凡社
定価：1,400円(税別)

大喜書店

京都市下京区麩屋町五条上ル下鱗形町563番2
TEL : 075-353-7169
OPEN : 12:00~18:30 水曜日定休(土・日・祝日は11:00~)
京阪・清水五条駅から徒歩5分

最近ベストセラーになっているフランスの人口統計学者のエマニュエル・トッドの新作、「老人支配国家 日本の危機」という本をキンドル買って読んでいます。アマゾンでのリコメンド欄にやたらと「岡潔」の著書が出てきます。誰かなと思っていれば、うちの書店の本棚に、岡潔の本がありました。

岡潔は、ここ数年、再評価をされている数学者です。彼は世界的な数学者であると同時に、日本人の心性や情緒に洞察を深め、多くの文章を遺した随筆家でもあります。名言と奇行の人とも言われ、

教育とは詰め込みだけの頭の良い人間をつくることではなく、人の中心は情緒にあり、日本人が本来もつ情緒がいかに美しいか、そして戦後の社会でその豊かな

情緒を失いつつあることに警鐘を鳴らし続けた人でもありました。当時、交感神経を締め付けるからという理由で帯を締めなかったり、周りには奇行と思われる部分も、今となってみれば、いち早く脳科学や自律神経と知力を結び付けて、自ら実践していた結果だったのでしょう。エマニュエル・トッドの警告よりも、時代が追いつけなかった天才の言葉のほうが、今の私たちには響く気がします。

(大喜書店 岡田良子)

「新型コロナウイルス感染症対策支え合い特別表彰」 を受賞しました。

この度、「新型コロナウイルス感染症対策支え合い特別表彰」として、(一社)京都府建築士会が京都市から表彰されました。

これは、新型コロナウイルス感染症対策に資する相当の金員又は物品を寄付された方を称え表彰されるもので、京都市が創設した「新型コロナウイルス感染症対策支援支え合い基金」にご賛同いただいた当会理事会役員の有志の皆様からいただいた浄財を、当会を通じて京都市に寄付したことにより表彰いただいたものです。

ご賛同いただいた有志の皆様ありがとうございました。



編集後記

皆さんはRPAなるものをご存じでしょうか。RPAとはロボティックプロセスオートメーション(Robotic Process Automation)の略で、人がパソコン上で行っている作業を処理手順を登録することによって自動化できるというものです。

例えば、Outlookにある全てのメールの中から条件に合う添付ファイルや指定フォルダに保存したり、Webページの文字を取得することができ、具体例としては、Webページにある鋼材単価情報を取得してExcelファイルを作成し、そのファイルを複数のメールアドレスに送信させるような処理です。フローをワンクリックするだけでブラウザの起動からメールの送信まで全ての処理が自動的に行われます。

このようなことをするために、はたしてプログラムを書く必要がありました。RPAツールにより「Outlookを起動し、メールを取得し、アクションを実行する」というような手順をあらかじめ用意されているアクションにより、簡単に自動化することができるようになりました。また、処理手順をレコーディングする機能を使えば、ステップが自動的にアクションに変換されますので、プログラム経験のない方でも簡単にフローならすぐ作成できます。

Windows11にはデスクトップ用Power AutomateというRPAツールが標準搭載されています。ぜひお試しください。(Windows10の場合はダウンロードが必要) (後藤幸秀)

発行人 ● 高田光雄 編集委員長 ● 橋本光生 編集委員 ● 加藤正浩 / 黒木要州 / 後藤幸秀 / 竹山奈 / 雪 / 徳光都妃子 / 西田敦子 / 沼田俊之 / 松田容子 / 森重幸子 / 矢谷明也 デザイン ● 松本和子 印刷 ● サンケイデザイン(株)



大報恩寺 本堂

戸田建設(株)大阪支店建築設計室 林 伸昭

大報恩寺は上京区七本松通今出川上ルに所在する瑞雲山と号する真言宗智山派に属する寺院である。鎌倉時代初期、藤原秀衡の孫にあたる義空による開創である。京都の旧市街地で最古の建造物である国宝の本堂があり、その棟木には、1227(安貞元)年上棟と記され、桁行5間、梁間6間、一重、入母屋造の檜皮葺で、鎌倉時代の和様を代表する仏堂である。平安時代の仏堂と異なり、民衆が本堂内で釈迦念仏を唱える道場として外陣を広くとり、蔵戸や引違格子戸を用いるなど住宅風の趣を伝える。中に安置されている重要文化財の行快作の木造釈迦如来坐像は、古来より厚く信仰され、近くに千本通りがあることなどで、千本釈迦堂として親しまれている。霊宝館に収蔵され、公開されている快慶作

の木造十大弟子立像、定慶による六観音菩薩像などの仏像群も大変魅力的である。棟梁は長井飛騨守高次であるが、柱の寸法を切り誤って困っていたところ、妻の於亀(おかめ)が桁組を用いることを教え、無事竣工させることができた。しかし於亀は女が夫の仕事に口をはさんだことを恥じて自害。高次が冥福を祈って建てた宝篋印塔をおかめ塚といい、大工の信仰を得るようになった。上棟式に使われるのお多福の面はこれに因んだとされ、於亀に因んだ節分会は毎年多くの人で賑わう。

優雅で力強いプロポーションに優れた本堂であるが、正面には松や枝垂れ桜などの大きな樹木が茂り、全景を捉えることができない。スケッチは、本堂南東にある於亀塚の近くに立つて全景を描いてみた。

募 集

「京都だより」作品紹介ギャラリー

あなたの作品を広く紙面で紹介してみませんか？

本会では会誌「京都だより」に、会員の作品紹介ページを設けています。
建築、インテリア、ランドスケープなど、みなさまの個性あふれる作品をお待ちしております。

掲載に関して

- 募集対象は（一社）京都府建築士会会員が設計もしくは施工に携わったものとしします。
- 掲載料は無料ですが、広報編集委員会にて選考の上、掲載させていただきます。応募作品多数の場合等は、掲載できないこともありますのでご了承下さい。
- 写真の撮影者名は必ず付記願います。写真に著作権が生ずる場合は、応募者にて対応願います。
- 掲載頁数は原則として1頁とします。
- 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いすることがあります。
- 作品の掲載順及び紙面レイアウトを含む全体の構成は広報編集委員会にて担当します。
- 概要及び説明文はメールで送付願います。

提出資料

- 写 真／外観、内観等 3、4 枚。
画像解像度 400 dpi 以上推奨。
デジカメ撮影の場合は1メガバイト以上を目安。
プリントの場合は2Lサイズ程度。
- 概 要／作品名称、所在地、建築主、設計者、施工者、用途、工期、建築面積、延床面積、構造規模。
- 説明文／作品に関する考え方を400字以内にまとめてください。
- 設計図書／選考用として平面、立面、断面、その他。

原稿期日及び送付先

- 期 日／毎月25日
- 送付先／（一社）京都府建築士会事務局
「京都だより 作品紹介」係

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ●近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION



株式会社 京都確認検査機構

Kind (親切) Open (明快) Certain (確実) Immediate (迅速)

■業務内容：

- 建築確認（事前審査有）・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》（業務区域：近畿2府4県）
- 住宅金融支援機構《フラット35（適合証明業務）》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画（技術的審査）
- 低炭素建築物新築等計画（技術的審査）
- 建築物エネルギー消費性能確保計画（省エネ適合性判定）

■業務区域：京都府全域

■手数料：当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。

●納入は当社受付窓口または銀行振込で。

■営業時間・休業日

◆営業時間 午前9:00～午後5:30

◆休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆

（年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします）

●土曜日も現場検査のみ対応しておりますが、検査の希望につきましては検査部にご相談ください。

〒604-0931

京都市中京区二条通寺町東入榎木町82

宮崎ビル4階

TEL：075-256-8980

075-256-8981

075-256-8982

075-256-8984

FAX：075-256-8985

075-256-8986

審査部

検査部

構造部

評価部

審査・構造部

検査・評価部

●ホームページ <http://koci.co.jp/>
●Eメール sinsa@koci.co.jp

～ご利用をお待ちしております～

契約駐車場（新堀木町沿コインパーキング・市営御池地下駐車場）については駐車券を配布しております。

